



畫本西遊全傳

二編

十



~13
3843
17



門へ13
3843
17

繪本西遊記二編卷之十
前章之下回

孫悟空さんごく金兜山きんとうざんの兇大王けうだいおう不側ふそくの宝貝たからいを帶おびて兵へいを収おさめ取とりて
の孫行者さんごくぎやう諸天神しよてんしんも更さらに那妖ないうを降くだすべし能あたはむと殆たいていりし
ころが行者ぎやう又思惟しゆいを回まわりて諸神しよしん小向こむかひて曰いわねりては再び天あまを昇のぼりて
我佛われぶつ如来にがにが小向こむかひて佛ぶつ必かならず慧眼えいがんをりて大地おほち四部しよぶ列れつを觀みる多おほし
這怪こゝろ那方なほうの妖いう乃なほ國くに子こ何なにの宝貝たからいなるをし知しるを知しるを知しるを
那なを降くだすも安やすくもも衆神しゆしん是こゝろには也なりと曰いはれを行者ぎやう又また前まへ
半な雲うん駕が一いつ瞬しゆんに雲山うんざん落おち下くだりて小こ至いたりて祥光しやうかう四し方ほうをあらわび
其その中ちゆうより人ひとの音ね有ありて孫悟さんご空くう唐たう僧そうを護まもりて西天さいてんにたりて却かへりて
茲こゝろ小こきころに何なにももとと人ひとありて行者ぎやう鷲じゆ頭とうを回まわりて這人こゝろを



西遊記二編卷之十

三三

比邱尼尊者なり。行者礼をなすと曰。我這小きころも則
 ち唐僧の難を解し為如来小回有り故なり比丘尼曰。汝
 汝怎麼空剝ふ登りす。這小来る何や。行者曰。我始
 如来在所へまゝ路をたす幸ふ。汝小遇願く。我
 我を引く如来の宝刹小行比丘尼承引。遂小行者成綉て雷音
 寺小入り佛小拜。斯と告ぐ。如来行者を近く。同
 々宣く。汝孫悟空前小觀音菩薩小命。汝身を解脱せら
 唐僧を保く。此小きころ経を求る。小怎麼只独茲小きころや
 行者頭を叩くと曰。弟子唐僧を保く。多くの難を凌む。西小赴る
 小金兜山小至り。一個の悪大頭小逢。名を咒大王と云。神通廣大
 小師又と徒弟を捉く。洞中小苦く。小より弟子諸天神を

かくひ苦戦ころも。數度小及び。那怪一個の圈子を以て
 我ホク兵器を把く。套去いゆ。更小降とせ。能く願く。我佛
 如来茲をえん。を摘ふ。唐僧を救く。謀を示し。敬て
 拜し。求る。如来少の慧眼を以て。延觀し。早くの知識を
 ひ。行者小向ひ宣く。那妖。我是を知。虫猥小銳破とく。
 小我今十八尊羅漢を。宝庫を用。十八粒の金丹砂と各
 一粒。汝力を助く。那を提く。行者大い
 喜ひ。思を謝す。佛則ち十八衆の阿羅漢小命令を傳へ。各
 各領掌し。宝庫の裏より十八粒の金丹砂を取出し。一粒宛と
 して。行者と俱小祥雲小駕。多回をす。金兜山小着。天
 王太子是を。勇と悦び。孫大聖早く妖王を呼出し。めく

と勸むれハ行者頓々拳頭を捻り涙口小到り罵り曰淫怪出来
まじし叫びれれ小怪ホまり今斯と報ず大王怒り鎗をさげ
宝貝を帯り石門の外小跳り出罵り曰賊猴幾番となり我ハ
負廻避なかり又来つて云唱を何ぞぞ行者曰汝浴物我まるを
怕るなり大降服し唐僧師弟を回し慇懃小陪礼せむ饒さん
那妖大曰那三個の和尚とぞお洗ひ浄うされ遠く守り宰殺
し屠吃ひ骸骨汝おぼせせん行者少く大い怒り拳を固く
取手くれば妖王も鎗を縛り撞くくふ行者右小跳り左小跳り
とあやしく繰り頃を回し敗まら妖大是を針とあし趕り洞
口を離れ南ふきくろ行者因分りしと即ち羅漢を招り丸羅
漢半空の甲より金丹砂を把り妖大を劈ひ一畚小抛下せむ妖怪

秘砂を丸く急小頭を低く是を避るふ忽ち足の下三尺余
乃深きく成れれ大い慌り身を蹴り廿一層小浮上む又二
尺余乃深きくかろ益驚かろ足を拔出し那圈子をとろ撒
り小叫ぶ声おはれり十八粒の金丹砂を悉く奪り歩を回し
本洞へ飯を去れ羅漢八個景手を空うり雲の端小立行者
迫り進り回し曰衆羅漢何由金丹砂を降りおぼる羅漢自他
一言叫びれれ金丹砂悉く奪り行者曰又是宝貝を抛り
奪去りかろ諸天神が曰那厮己小佛の力お及むを今何と
うせんとかの煩ふ然る小降竜伏虎といふ二個の羅漢行者小向
ひ如來我ホ小宣ひりあり妖怪神通廣大や金丹砂を
収めしを孫悟空小命一離恨天小昇り太上老君の所ふり

阿羅漢
投金
丹砂
惱
角大王



独用大王

羅漢

行者



西遊記二卷

妖王が踪跡を尋問し、一鼓ふくく擄ふとて、のろろなり。行者
 者ぞ、曰、恨なす、如來其何我ふ斯と告む、遠く羅漢と
 勞さる下たふさ、む太上老君ふ見く、身を成候
 しく、勅斗雲ふ駕直ふ南天門ふ令、三十三天の外離恨天兜率
 宮ふ到、老君ふ拜絹、曰、老孫唐僧を保く、西天ふ到、經
 を需ん、とて、一個の阻礙あり、因、老君ふ問明めん、老君
 曰、西天の道の阻我何ぞ預、知所あるんや、行者曰、老君の官
 中の査あり、我改めん、裏面ふ令、西ふ着東ふ足、幾層の廊
 下を過行ふ、忽ち看牛欄の辺、一個の童子熟く睡、居々々、
 青牛欄中ふあ、行者を回、曰、老君の青牛那里へま、ひや、老
 君大い、孩、此、這業畜、幾河ま、り、今、那童子を呼、醒、喝、

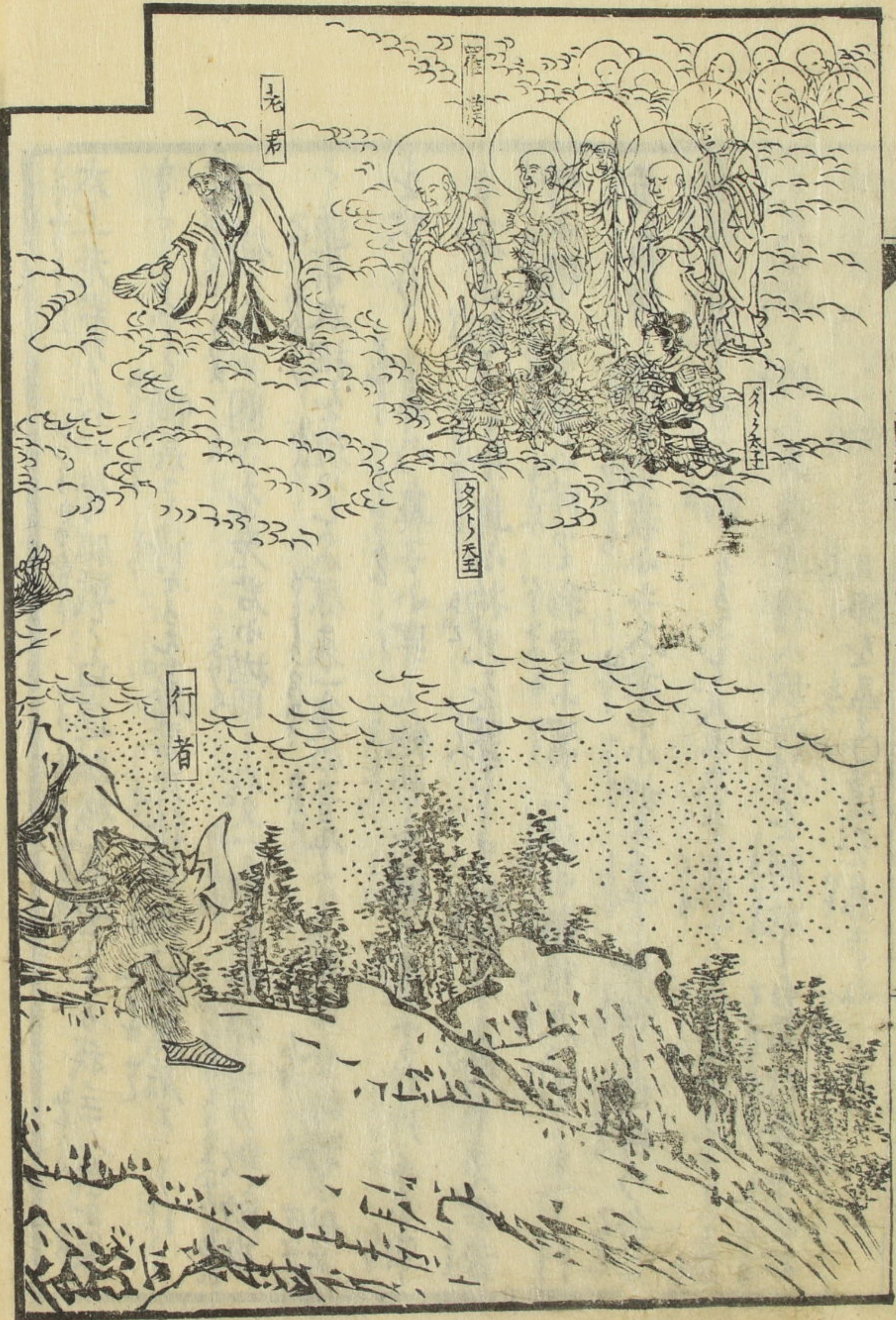
曰、汝何也、耽睡、牛をま、せ、や、童兒頭を叩、曰、弟子丹房
 の裏、一粒の丹を搦ひ、服、い、い、其、終、睡、牛のま、り
 一、然、知、い、と、老君曰、お、お、我、前、日、火、丹を煉、七、粒、過、一
 粒を落、一、お、お、汝、拾、ひ、吃、い、わ、ん、那、丹、一、粒、を、吃、を、眠、
 多、七、日、ふ、那、業、畜、汝、が、眠、人、の、看、管、を、な、れ、下、界、へ、ま、
 去、一、わ、ら、行、者、が、白、業、畜、宝、貝、を、偷、去、む、や、老、君、以、て
 急、小、宝、貝、を、査、看、ふ、金、剛、琢、を、ん、と、老、君、孩、那、厮、已、小、金、剛
 琢、を、偷、去、む、大、聖、一、那、が、在、地、方、を、知、る、や、行、者、が、曰、現、小、那
 厮、金、兜、山、の、洞、在、く、唐、僧、師、徒、を、捉、其、上、一、個、の、圈、子、を、捉、て
 我、金、箍、棒、を、始、ま、り、兵、器、を、捨、て、老、君、が、曰、那、金、剛、琢、乃、ち、是
 我、を、化、さ、る、の、音、め、て、幼、死、より、煉、成、の、宝、貝、なり、汝、甚、乃、兵、器

を憑むるも水火の能近付りな。他は我芭蕉扇を偷
 去む我奈何もももも能たぬ。是一個の幸なり。いさ波と俱
 小のりり業畜を収めん。芭蕉扇をとりて行者と俱小祥雲小
 駕運小金兜山小降。着托格天王叉子緒神羅漢も是を刀を
 迎て礼を方守。老君行者も令。汝去て他を誘ひ出せ。我よく
 他を収めん。行者領掌し跳て峰頭を下りて洞口小到て罵て曰。濃
 業畜快く出て死を受て。妖女曰。這賊猴又誰を憑てきりし
 やし。鎗をとり宝貝を帯て門外へ走り出る。行者一言り問答もせず
 能てりて妖女起臉を強て身をも回て跑出せ。那も暮輝し
 鎗を縛て纏る所も忽ち高峰の上も有て我牛兒久く家小
 還てす。更も何日を待やと呼り。妖女頭を甚て是を又も小

太上老君かれ心驚胆戦て曰。這賊猴息麼。とて我主人公を憑
 きりりや。惆景て傳々を。老君兄縁を念て芭蕉扇をりし
 一下扇を妖女圈子を老君の地回れ。又一扇をれ。那怪力軟筋麻
 へ逐も本相を現てて。原来一隻の青牛なり。老君金剛琢小仙気
 を吹りけ。青牛の鼻子小穿し。袍帯を解て是もけ片手小率
 自ら今小到て牛鼻小拘兒を穿て。此故なり。斯も老君衆
 神小辞し。青牛小蹄も彩雲小駕。運小離恨天。回りて行
 者も衆神と俱も洞裏も亦も衆の小妖を盡て亦殺し。緒神の兵器
 を把て還り旁を緝て。天王太子を始て八羅漢小至るまで悉
 く天小回り終る。其後唐僧八戒沙僧を解放し。白馬行李を収拾
 師徒四人洞を離る。大路を尋て道を急まね。



西遊記



得全吞殮懷鬼子

黃婆運水解邪胎

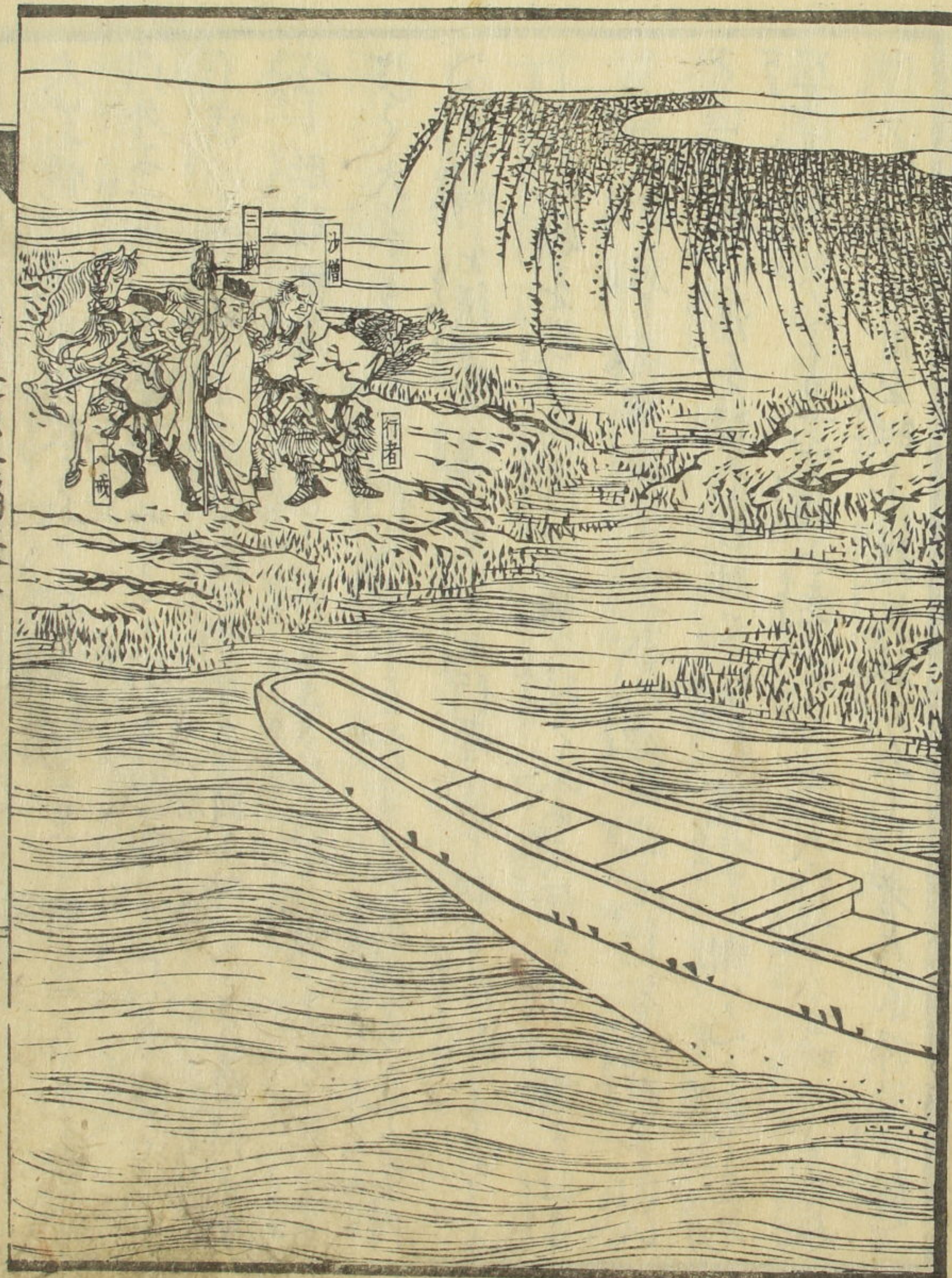
同小路傍小声有之。唐僧们各を吃之と去と呼者あり。三藏亦其故
 を志す。大い妖怪と頭を回して是を刃る小。即ち金兜山の山神土地
 あり。紫金の鉢盂を捧ぐ曰。是ハ孫大聖向化して。猪はる各飯を
 長老大聖の良言を聴む。妖大提られ。多く大聖を愛し。稍
 く免るるを。此飯を吃し。行者孝恭の尊を知りて。中を
 三藏洞を流し。我園子の中を出で。殺身乃害小遇す。たはハ
 戒が言小迷ひて死地小陥り。多く徒弟を煩はせりと云。行者八戒を
 守りて。曰。這妖子我禁戒を信せず。師又を逐して。這大難小遇し。免
 り。老孫天を翻し。地を覆し。天兵と水火と我佛の丹汝とを
 結き。つと虫を妖大を降し。能く。衛如来乃根原を指示

玉ひ小侍。繞小老君を結き。つと収伏し。以ほり。獨を引出
 さむ妖怪より先小汝を撃殺すと命を。滅められ。八戒頭を叩た
 り。罪を謝す。三藏も深く行者が勞苦を謝し。四人那存飯を吃と
 り。尚熱氣騰々温かれ。行者訝り。此飯汝小預け。多河あり
 小尚温か。何ゆ。同土地跪く曰。小神大聖乃功完を賞し
 り。温めき。れ。行者其尊情を謝し。師徒快く吃し。終り鉢盂
 を收拾。土地山神小辞し。又西小向。風小強。水小急。行
 數月。陽春の同節小逢。路小一。道の小河あり。水澄々
 と。波湛々。三藏馬を勤く看む。河乃那辺小柳蔭。碧と垂
 り。微小茅屋幾椽あり。則ち徒弟小向ひ。曰。那人家定。擺渡
 あ。汝小呼き。此河を。八戒。行李を放下。高

呼く曰。擺渡的船を撐きよれと連呼する四五声及びびく。只看那裏
面より一人の者出きし。船児を撐きし。東岸小着旅客快く船小
乗る河をさしりゆると云。三藏亦馬を下りて近付る。是一個の老婦
人なり。三藏怪しと問く曰。汝は是擺渡なるや。婦人曰。貴意なりと
渡守なり。行者曰。稍公何由あふ。婦人曰。稍婆小船を撐しむるハ
縹ろ有る。老婦微笑く答ふ。三藏師徒ハ白馬行李を把く
船小乗終る。婦人頷く。埠を揚る。西岸小着。三藏師徒岸小登
り包を開た。幾文の錢鈔を取る。他ふもふる。老婦更も寡と
争ふ。纜を樹小栓在。啼々と笑く。屋の裡へぬ。三藏河水乃清
をさく。八戒小分付。我今口渴なり。汝鉢盂を把く。些の水を爲て来
り吃せ。めとく。いふ。と。歎子曰。我ゆ。些吃ん。を。お。り。と。直

小鉢を爲取。師又小。三藏。飲残る。を八戒小。と。ま。む。
歎子接来。只一氣。飲乾。快々。と。三藏。杖侍馬。行処。小。三藏
馬上。小。有。と。呻吟。我。甚。腹。痛。と。と。八戒。面。を。皺。を。て
我。頻。腹。痛。ゆ。と。問。也。沙僧。曰。サ。小。是。冷。水。を。飲。し。ゆ。
な。と。と。三藏。大。声。喚。痛。と。已。小。取。糸。と。て。馬。上。小。心
煩。と。八戒。路。頭。小。卧。持。び。疼。痛。小。堪。と。大。声。小。泣。と。と。肚。を。摸
る。小。漸。小。肚。子。大。血。團。肉。塊。有。と。と。わ。れ。驚。お。恐。し。む。と。大。く
か。ず。行。者。も。沙。僧。も。り。と。あ。ま。う。と。前。路。小。村。舍。有。と。樹。の。梢
小。兩。個。の。草。把。を。挑。と。行。者。曰。師。又。昔。何。疼。痛。を。忍。ひ。と。那。村。小
酒。賣。家。有。と。と。老。孫。行。と。熱。湯。を。請。き。と。と。勸。免。且。藥。り
賣。者。を。尋。と。買。求。腹。痛。を。治。せ。と。三藏。若。痛。り。中。の。是。を。中。て

西遊記二卷



西遊記三編卷十



三藏師弟到女國

西遊記三編卷十

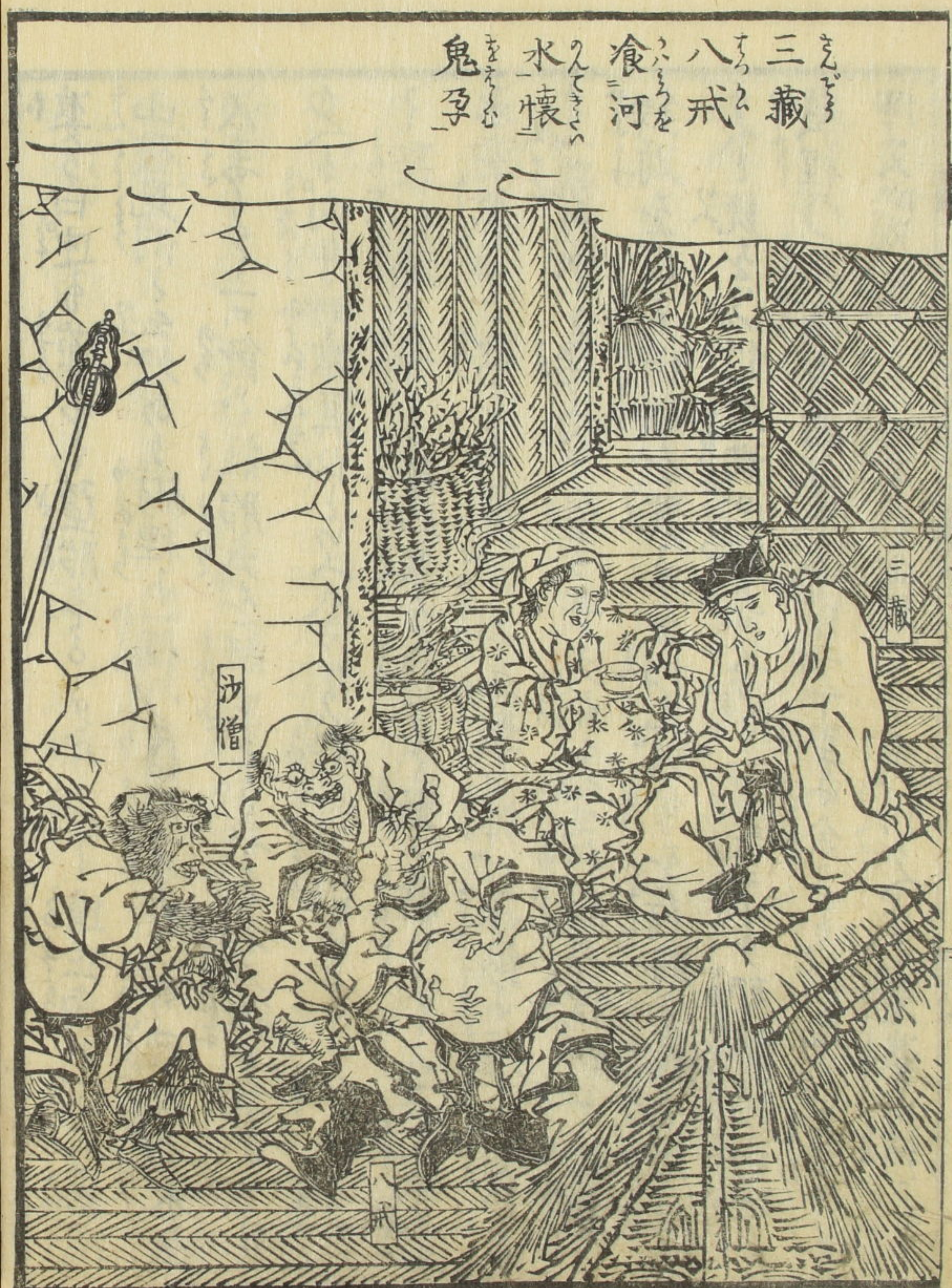
九

急麼熱湯のよく治さるる處を尋ねんと結ぶゆゑに三藏はさう大いの子
已ふ斯のくくかゝるを急とて命を危くしたるを咎めんと泣き悲しむ
行者笑ひて曰く我れ男の身なり子を胎す那の穴より生れんと惘惑
行者笑ひて曰く古人の言あり凡そ胎を孕むるは戒ゆる筋なく骨接
ふ至るは腹下より裂れて産出せんと云懼せむ八戒ゆる筋なく骨接
く恐るは慌罷了々々死するを泣き悲しむ沙僧笑ひて曰く二哥
あやう腹を志せむる勿れ腸を錯胎前の病を做し胎子を益洞
を流し行者を拜して曰く師兄這老婆小問は近里小手の怪は總
婆があらふ中へ来りせり今痛を緊く一會一陣肚の塊動くハ摧
陣疼をうし三藏は曰く婆々這里小医家へ来りてあは行きて一帖の墮
胎薬を買きて取りて我小服せし胎を歩下りて毒よく結ぶ老

婆り曰く此の薬あり墮胎するものなり但し這正南の小一坐の解陽
山破見洞と云ふ處あり洞裡の小一個の落胎泉あり那井裏の水を
汲来りて一口飲む能胎氣を解下すされども今ハ賑く取らざる其
ゆゑ向年如意真仙といふ人きり那破見洞小きり任名を改
り聚仙庵と号し落胎泉を護りて敢て怪々々人小とを若
水を要んと欲する者ハ羊酒果盤を捧げ志誠小拜し要む生
た一碗の水を賜ふ今看る長老們は是行脚の僧何ぞ行妻の
錢財を出し供物を買ふをばく只命を待時を疾く生産
めんと銃を歩行者満心歡喜又曰く這里より那解陽山近
幾程の路程あるや婆々曰く二千里小余きり行者曰く好了々々
師又心哉敢し老孫水を取きて我待するも老妻小結く一



三藏 八戒 食河 水懷 鬼孕



乃丸鉢を把草舎を出雲を縦去りて老婦大不強此這和尚雲ふ駕よりを會しりてて礼拜し。是より三藏師徒を活佛く尊び前乃婦人を呼出しりて礼拜を湯を焚飯を調ト、りてわつ、双抱しり。斯く行者ハ女項小解陽山小刹と雲頭と接く觀看小背陰所ハ一所ハ庄院あり。侍進至りて一人ハ老道士緑茵の上小坐し居り。行者丸鉢を放下礼をなす。道士向く曰。汝ハ那方より来り者ぞ。行者曰。貧僧ハ東土大唐の者なり。欽差を奉り西天ハ赴た經を要し。然る師又誤り子母河の水を飲肚疼り禁し。曾く土人の説をき。是胎氣を結成とぞ。又寶山ハ落胎泉ありと承り。特き。如意真仙ハ拜謁し。此の水を求め師又を救し。願く。真仙ハ所在を指し

りて道士咲く曰。此所就ち破児洞と云。今改り聚仙庵と号し我那如意真仙ハ徒弟あり。汝ハ名を何と称や。行者答く曰。唐乃三藏の大徒弟孫悟空と者なり。道人又問り。汝ハ花紅酒札那里小者や。行者曰。我們ハ是行脚ハ僧一物を貯。只此の水を乞ふ要し。道人咲く曰。我老師又此靈泉を護任り。睡りて入送り。汝回去り禮物を乞。これをもなくハ通報し。行者抑返り。先令老孫ハ名を説。真仙ハ守禮物を乞。一井の水を盡し。我ハ贈らん。道人此言をき。惘々走り。斯く報り。これハ真仙一度孫悟空ハ名をき。勃然と怒り。素服を脱ぎ。袂を穿ち。手ハ一把ハ如意をとり。庵門を蹴り出。曰。孫悟空ハ何里小在や。叫行者急礼をな。貧僧即ち孫悟空なりと云。

真仙眼を睡らり。曰。汝が師又ハ唐の三藏と云。然るハ汝路より
 聖嬰大王の會するや在。行者曰。他ハ火雲洞の紅孩児と云
 浣姪なり。先主何の爲是を問や。真仙曰。他ハ我舎姪なり。我ハ是
 牛大王の舎弟なり。前ハ家兄音信きたりて。我ハ告ぬ。唐の三藏の
 徒弟孫悟空といハ浣猴。我兒を害せり。是ハ依テ我汝をよぶ
 仇を復さんとおり。何ぞ唐僧ハ胎氣を解テ元神水と云ふ
 つれハ罵す。行者笑テ曰。先生差まり。汝ハ舎兄ハ就チ我ト結
 拜弟兄なり。又那令姪ハ正果ハ飯ト観音菩薩ハ隨ハ善財
 童子と云ふ。何ぞ我を恨む。あハ真仙益怒テ曰。這浣猴
 何ぞ多言なる。我舎姪独称ト王トなるハ。渾ト人の奴と成テ
 何の好む。あハ我這如意を吃トて。行者をわけ。撃テか。

孫行者も慕燥鉄棍を輪々ト鬪テ十余合。其棒滾々ト
 流星の如クわれ。真仙筋力勞テ如意を拖テ山ハ敗登ル。さ
 じの行者是成趕んとせ。却テ庵内ハ水を尋ん。然るハ
 前の道人早ク庵門を閉テ。行者手ハ瓦鉢を拿テ。門前ハ
 まり至リ。金脚をよテ。門を踢破テ。進テ入。那道人井欄ハ
 小まテ井を穿リ。行者棒をよテ。道人を撃んと。然レ道人戦
 々競テ逃退ク。其間ハ行者吊桶を尋。ト已小水を汲。ト
 たる折。真仙又走り。如意を把テ。行者が脚を引。け
 歩跌。行者急ハ肥起棒を使テ。撃んと。然レ真仙早ク逃退
 ク。又水を汲。ト他又走り。行者が脚を引。跌。行
 者大ハ焦燥。左ノ手ハ棒を輪。右ノ手ハ吊桶を振。水汲

んとしるふ。真仙まけんはまきり依より行者ぎやうが脚あしふ如意にぎを鈎かぎり引ひ蹴けす。此
 同行者どうぎやうあり手て索あひ子を千ち放はなしたる。吊桶つづと索あひ子こも井中いぢゆうへ
 落ちたり。行者ぎやう大おほ怒いらり棒ぼうを論まがり撃うつんとし。直仙ちくせん早はやく逃にげ
 去さり敢あり敵たかせんと。行者ぎやう暗想あんし。多おほく已たまふ吊桶つづを落おち
 くれむ水を汲ひみ能あたり。水みづを汲ひんとし。他た又またきり。妨まがり
 かん一旦いつたん回まわり手てを呼よび。水みづを取とり。就すなはち雲頭うんづふ跳はりあがり
 透すふ村舎むらやふ回まわり。三藏さんざう疼痛いたむ堪たむ呻吟うんげん。八戒はつがい嚙かり啼なり色いろを
 行者ぎやう裏うらみ入り入いり三藏さんざうふ向むかひ前まへの條じょうを繞まわり。一遍いつぱん。此般このやうハ沙僧しゃそう
 と俱とも小練せうれんを殺ころす。水みづを取とり。云いふ。三藏さんざう涙なみだを流ながす。曰いわく。汝なんぢ
 們ら兩人にりふ那山なさん往むかひ我われと八戒はつがい維い有ありて。伏侍ふくせうせん。至いたる老女らうにょ曰いわく。羅漢らかん
 心を放はなす。我われホほく伏侍ふくせうせん。行者ぎやう曰いわく。汝なんぢ們ら女流にょりゆうの輩たぐひ恐おそくす。

師し又またを擲なげ。辱ちし。老女らうにょ曰いわく。我家わがや都とく四五四五口口皆みな幾いく歳さい年ねん紀き風月ふうげつ
 乃すなはち心を。昔あく羅漢らかんふ迫せまり辱ちし。長老ちやうらう們ら弟あに二に家かふ到いたり。皆みな
 年ねん女にょの者もののとみ。放はなち去さり。二に定じやう交かう合ごうせん。要いらん假かり不ふ徒た
 との命いのちを害がいす。行者ぎやう曰いわく。心こころを放はなす。老婆らうたふ
 吊桶つづと繩ひもと成なり要いらん。汝なんぢ僧そうと俱とも小雲せううんふ駕がり去さり。平河へいがをうり
 めく。解陽山かいやうざんふ至いたり。雲うんを按おり。透すふ庵あんの外ぐわいふ至いたり。行者ぎやう沙僧しゃそう
 小示せうし。汝なんぢ一ひと旦たん小解せうかい者もの我われ真仙まけんと交かう戰せん機き小兼せうけん。汝なんぢ庵あん裡らふ
 今いま水みづを汲ひ取とり去さり。令し其その身みの棒ぼうを製せい門もん外ぐわいふ進しん。門もんを閉しめ
 ぞ叫なり。如意にぎ真仙まけん大おほ怒いらり。深ふか猴こう又またきりて我われ神しん水すいを偷ぬすむ。と
 々々々。如意にぎを揮うり。行者ぎやう棒ぼうを使つかり。急いそ架か門もん外ぐわいふ。挑ひ
 戦いくさひ一ひと歩ぽ二に歩ぽと縲くわ引ひ。遂つひふ山やま坡のりの下したやく。釣つり出だす。戦いくさふを



行者

沙僧

西遊記三續卷十

行者沙僧
 汲於解陽
 山落胎泉



如意真仙

西遊記三續卷十

由都く化尽し忽ち死せんといふ。黙子大い小強死又盡子滅結く
 僅小羊盡を吃ひ終る。女同有く三藏八戒くも小腹中絞痛も只
 穀轉々く五六傳腸鳴て。黙子堪くも大小便を席上小垂流せ
 三藏も静所小行んもを要む。行者が曰。師又猥小風地へ出さる
 を恐く風邪小冒され産後疾を弄出さん。左右もさるうら兩
 個も肚子乃疼痛任に漸々小腫脹も消し。血團肉塊と刀はし
 化しん始く生小飯をさる心地。歡喜く限り。老婆も此裏小
 白米粥を煎く。兩個小進も長者們産后小く。肚もさる力もさる。是
 を吃く。虚を補ひもく。八戒が曰。粥もさる。魚先湯を焼く。洗個
 深させよ。然くも後粥を吃く。沙僧が曰。哥々。ゆきを洗足もさる。さ
 坐月子の人湯を弄を断然病を生せん。八戒が曰。然くも我ハ緘の産小

らす只是小産かれを苦く。老婆もさる大い小く。則ち湯を
 焚兩個小よ。手脚を淨ち。むきか。三藏悦ひ白米粥を兩盡
 食く。八戒は引く。十七八盡を吃ひ。猶飯をも吃せんもを要む。
 行者憫景。汝産后小斯く。大食せも。汝包肚乃病を打。と
 りふと八戒は。をむ。筋を收り。同小主の老婆。三藏小向ひ
 願く。残る水を我小賜く。やと請。三藏が曰。我小有く。无益
 水な。心小任せ。といふ。老婆大い小悦ひ。吊桶小残る水を
 瓦碓ふる。後迎り地下小埋。貯。是をり。見れば如何。多
 乃。真水といふ。斯く家裡乃女幸小く。水を
 飲喜。飯を整頓。四衣をり。師徒大い小悦ひ
 其夜ハ宿。次の日。猿装を調。老婆小享。礼謝。村舎を立出

るまじ減あ小行者あ功あ勞ま少ま鬼あ孕まをまねまれまるまハま正まふま是
くま洗ま淨ま口ま業ま身ま乾ま淨ま
せん銷ま化ま凡ま胎ま體ま自ま然ま
ま是まよりま四ま殺ますま西まをま望まぶま走まるま畢ま竟ま那まのま地ま方ま小まりまとま也ま追まてま弟
ま三ま篇ま弁ま見まとまるま成ますまらまてま分ま解まるまふま也ま

繪本西遊記二篇卷之十大尾

譯

浪花

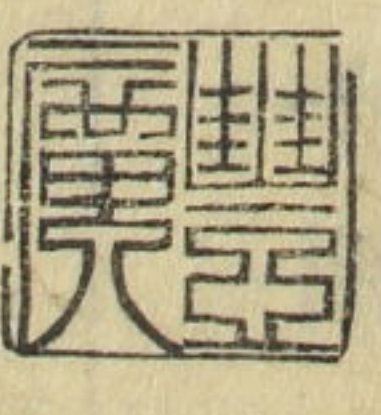
山珪士信



畫

東武

歌川豊廣



彫工

平安 浪速

井上次 兵衛 市田治郎 兵衛

繪本西遊全傳三輯

全部十冊

發販

第二篇乃續唐三藏法師三徒弟とも小西天あのあ赴あ路あ上あ西あ洋あのあ女あ國
あ小ありあ淫あ情あのあ汚あれあんあとあもあ事あ迹あよりあ火あ焰あ山あのあ災あ害あ荆あ棘あ林あ少あてあ乃あ十あ六あ年
あ其あ余あ小あ雷あ音あ寺あのあ大あ難あ豹あ頭あ山あのあ艱あ苦あやあひあ子あ苦あ萬あ勞あをあ凌あてあ遂あ小あ天あ竺あ小
あ至あ佛あをあ拜あしあ經あを得あてあ唐あ山あ小あ飯あるあ條あ都あ々あ五あ十あ四あ回あよりあ百あ回あのあ畢あ追あを
あ此あ部あ小あ著あといあ前あ小あ出あ販あせあ初あ篇あ二あ篇あのあ落あ着あとあ知あんあとあるあハあ此あ篇あをあ圖あ山あ也あ

西遊記二篇

浪速 柳園種春著

繪本復讐言千丈松

全部五冊

江戸 葛飾戴斗画

子久初春新版

往時遠久頃々よ。松井同肥ある者舎兄逸出が為小勳羅管辛
而仇と追車五年逐小四國に於て雙言の條村やう者と付て管美名
とありく。車跡と今文政十丁亥閏六月新小古老の傳格とくく以
直小又卷よ著て勸徽乃一助為車と歎言皆事實と説文善
人情節義を著以真乃新編と可謂の書也

浪花 山田山案子 著
繪本金石譚

前後十冊

靈驗 月所 柳齊重 春画

此書、劇場小のせ、秋葉権現廻船語を撰、槐本英列叔父祐明齊が事述
香兵衛袂衣が奇偶三王左門が行條示を面白く綴り、新趣向の續本なり

再刊 繪本 校本庭訓性来

全一冊 浪速峰岸就父先生校正并書
近刊 東都裁斗先生画

庭訓性来は本朝文苑の文章なるの著く世人の志ありて余が花板小繪抄
庭訓性来の今流布の本と同く文字脱漏、假字違ふあり近來三都の彩板に
皆同類とて言本寫きぬる。因て再刊の次第、岸先生は此書に
未板のやうに授正并筆耕のよと説く。先生云庭訓の授正は、
解がたの多し中も九月十月の佛家の撰答、けい、
漢解も杜撰あり外、
又武家正統の古言など、
余よ与らる見、
書風も本ふるべきに、
是庭訓性来の本、
流布の諸本と見、
文政十年丁亥三月

浪華書林 岡田群玉堂主人謹誌

阿古義物語後編

金傳六本

出菜 本町庵三馬遺意 狂訓亭主人做綴

前編世ふはりしと既に年河のとのどもゆきその局成法がみ

いあるはまきまを婦女子のまを林をはりて嗣編とあるとをきき

わきと二馬先生筆成たりて著他は河そをまびらうを猶更

看官は遺憾催促阿古義法浦の度る世門人三鷲より折

のりみ口授せしむる條文ともくこの編を授りてまば式亭の依よと

あまざ只文章の拙より予が罪おやさいの亦編の氷解のこのもよを

世に葉女千騎が山石合捕をまよる成始り三助抗の神通仇を打乃

一條亦末世女生肝をどうり段并才天女法靈氣神徳忠寿節儀は

たやまめいとまよまおの路も草紙あま 三鷲改 楚滿人をす

干時文政士年

戊子孟春發行

水曾義仲勲功圖會

前後十冊 丑春發行

幾端悪源太義平大倉谷すく伯

叔先生義賢を討取事迹より藤

實盛駒王丸を助く水曾小赴く條

駒王丸成長く義仲と名稱北曾小

義兵を起し遠小平家を西海へ追

下し奇世の軍功を顕せし事實を此

書小委し轉録を

京都

吉野屋仁兵衛

伏見屋半三郎

山城屋佐兵衛

江戸

前川六左衛門

大阪屋茂吉

名古屋

永樂屋東西郎

美濃屋伊六

塩屋平助

播広屋本三郎

今津屋辰三郎

河内屋太助

河内屋儀助

大阪

河内屋長兵衛

